

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和4年6月】

■調査概要（データ対象期間：令和4年6月1日～6月30日）

○調査期間：令和4年6月30日～令和4年7月22日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業19企業、製造業18企業、卸売業12企業、小売業26企業

飲食業17企業、サービス業41企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計133企業>

○調査項目：6月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準と

して、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下

向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示す

ものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DIはプラスからマイナスに転じ、水準DIはマイナス幅の拡大

1. 業況判断

○全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、前月(0.8)よりプラス幅が3.0ポイント縮小し、▲2.2となった。業種別では、サービス業はプラス幅が縮小した。卸売業はプラスから0になった。小売業はプラスからマイナスに転じ、飲食業はマイナスからプラスに転じた。製造業、建設業はマイナス幅が縮小した。

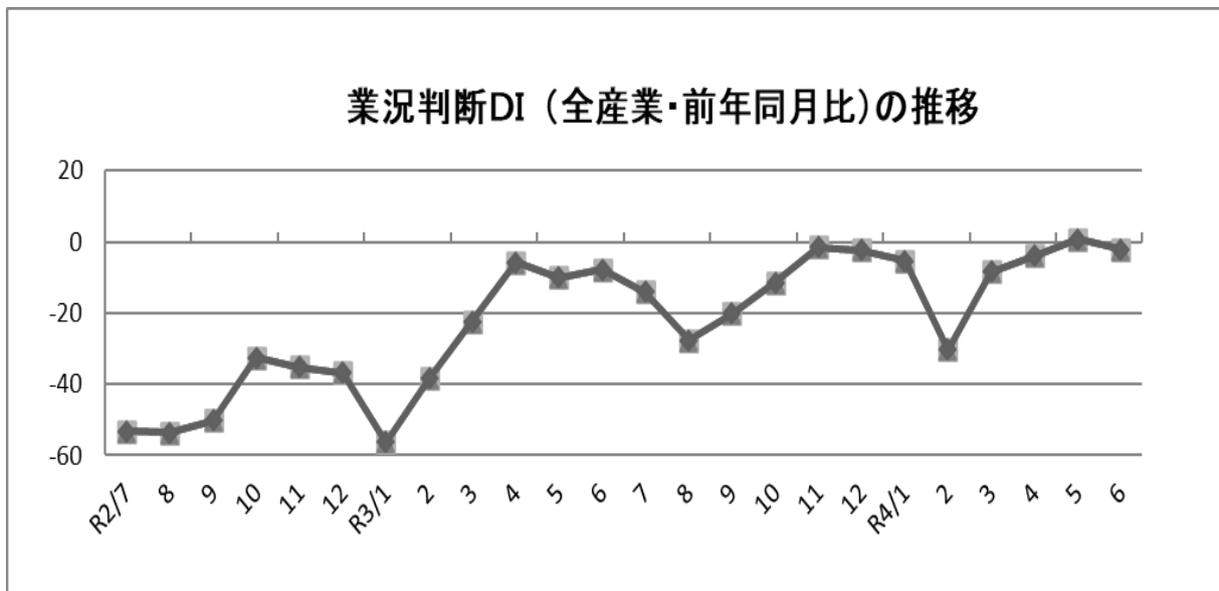
○全産業合計の水準DIは、前月(▲16.6)よりマイナス幅が5.9ポイント拡大し、▲22.5となった。業種別では、卸売業はプラスから0になった。小売業はプラスからマイナスに転じた。製造業、飲食業はマイナス幅が縮小し、建設業、サービス業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	21.1 (22.6)	55.6 (55.6)	23.3 (21.8)	▲ 2.2 (0.8)	11.3 (15.0)	54.9 (53.4)	33.8 (31.6)	▲ 22.5 (▲ 16.6)
建設業	0.0 (0.0)	78.9 (76.2)	21.1 (23.8)	▲ 21.1 (▲ 23.8)	0.0 (0.0)	73.7 (76.2)	26.3 (23.8)	▲ 26.3 (▲ 23.8)
製造業	27.8 (20.0)	38.9 (35.0)	33.3 (45.0)	▲ 5.5 (▲ 25.0)	27.8 (15.0)	22.2 (30.0)	50.0 (55.0)	▲ 22.2 (▲ 40.0)
卸売業	16.7 (38.5)	66.6 (53.8)	16.7 (7.7)	0.0 (30.8)	16.7 (23.1)	66.6 (61.5)	16.7 (15.4)	0.0 (7.7)
小売業	19.2 (30.4)	57.7 (56.6)	23.1 (13.0)	▲ 3.9 (17.4)	11.5 (26.1)	50.0 (52.2)	38.5 (21.7)	▲ 27.0 (4.4)
飲食業	41.2 (21.4)	23.5 (50.0)	35.3 (28.6)	5.9 (▲ 7.2)	5.9 (7.1)	47.0 (42.9)	47.1 (50.0)	▲ 41.2 (▲ 42.9)
サービス業	22.0 (26.2)	60.9 (57.1)	17.1 (16.7)	4.9 (9.5)	9.8 (16.7)	63.4 (54.7)	26.8 (28.6)	▲ 17.0 (▲ 11.9)

()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」…前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」…事業主の方の主観による回答の集計



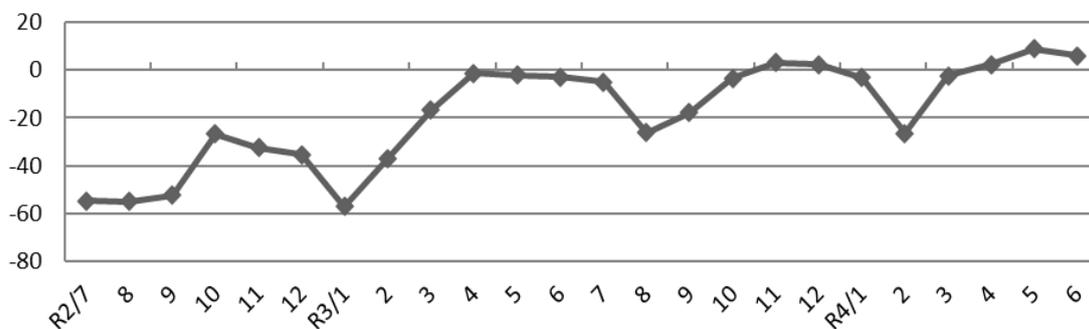
2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月(9.0)よりプラス幅が3.0ポイント縮小して、6.0となった。業種別に見ると、飲食業、卸売業はプラス幅が拡大し、サービス業はプラス幅が縮小した。小売業はプラスからマイナスに転じ、製造業はマイナスからプラスに転じた。建設業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月
全体	▲2.9	▲5.1	▲26.1	▲17.9	▲3.5	3.0	2.3	▲3.1	▲26.5	▲2.3	2.4	9.0	6.0
建設業	▲18.2	▲26.3	▲25.0	22.2	▲4.5	15.8	▲5.5	▲15.8	▲23.8	▲25.0	▲15.8	▲19.1	▲21.0
製造業	25.0	35.0	22.7	4.6	10.0	▲5.2	▲5.0	10.5	▲52.7	0.0	▲16.6	▲10.0	5.5
卸売業	7.7	▲10.0	▲25.0	0.0	7.7	9.1	8.3	40.0	40.0	23.1	54.5	23.1	25.0
小売業	▲16.7	▲13.6	▲48.2	▲45.9	20.9	13.0	9.1	4.4	▲28.0	4.2	4.5	26.1	▲3.9
飲食業	▲10.0	▲25.0	▲82.4	▲61.1	▲17.6	5.3	16.6	▲50.0	▲80.0	▲35.3	0.0	7.2	11.8
サービス業	0.0	0.0	▲15.0	▲17.5	▲20.5	▲7.1	▲2.5	0.0	▲12.0	9.8	5.0	19.0	17.0

売上高DI（全産業・前年同月比）の推移



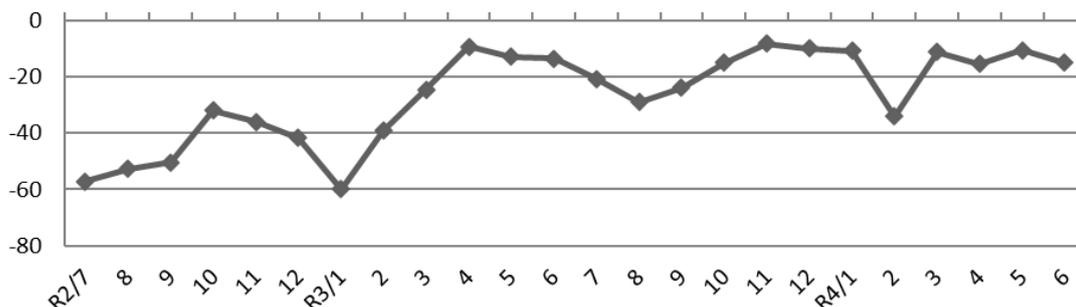
3. 営業利益DI（前年同月比）

○全産業合計の営業利益DIは、前月(▲10.6)よりマイナス幅が4.4ポイント拡大して、▲15.0となった。業種別に見ると、サービス業はプラス幅が縮小した。卸売業、小売業はプラスからマイナスに転じた。製造業、飲食業、建設業はマイナス幅が縮小した。

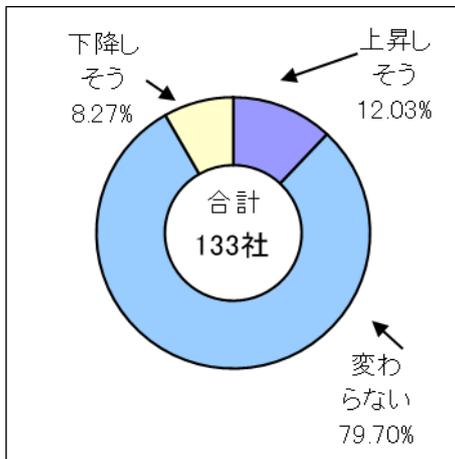
【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月
全体	▲13.5	▲20.8	▲29.0	▲23.9	▲15.0	▲8.3	▲10.0	▲10.8	▲34.1	▲11.3	▲15.4	▲10.6	▲15.0
建設業	▲18.2	▲36.8	▲30.0	5.6	▲22.7	▲5.2	▲27.8	▲21.0	▲23.8	▲30.0	▲31.6	▲38.1	▲36.8
製造業	▲5.0	5.0	4.5	▲4.5	▲20.0	▲15.7	▲35.0	▲10.6	▲57.9	▲11.1	▲44.5	▲50.0	▲27.8
卸売業	▲7.7	▲20.0	▲16.7	0.0	7.7	▲9.1	0.0	30.0	0.0	▲7.7	27.3	15.4	▲8.3
小売業	▲25.0	▲27.3	▲37.0	▲50.0	4.2	4.3	0.0	0.0	▲16.0	4.1	0.0	8.7	▲23.1
飲食業	▲15.0	▲35.0	▲82.4	▲66.7	▲29.4	▲21.0	16.6	▲56.2	▲80.0	▲47.0	▲21.5	▲21.5	▲11.8
サービス業	▲9.5	▲15.9	▲22.5	▲20.0	▲20.4	▲7.1	▲10.0	▲4.7	▲31.0	2.4	▲12.5	7.1	2.4

営業利益DI（全産業・前年同月比）の推移



◇ 向こう3カ月の見通し ◇

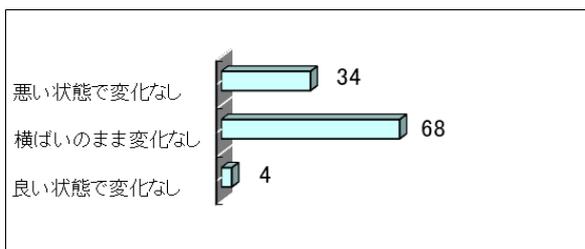


○令和4年7月～令和4年9月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ横ばいのまま12.03%、「下降しそう」が横ばいのまま8.27%となった。業種別の見通しDIは建設業(10.5)、製造業(5.5)、卸売業(8.4)、小売業(▲11.5)、飲食業(11.8)、サービス業(4.9)であった。

➡「上昇しそう」では「契約に結び付きそうな引き合いがあるため」「業況が下降気味なので挽回しなくてはならないため」「新年度の工事が発注されるため」(建設業)「受注量が増加しているため」(製造業)「顧客に謝恩割引実施のDMを送付するため」「繁忙期であるため」(小売業)といった声が寄せられた。また「新型コロナウイルス感染症の影響が収まってきているため」「観光シーズン、インバウンドの開始や信州割SPECIALなどの観光関連に追い風が吹いているため」といった声が多数寄せられた。

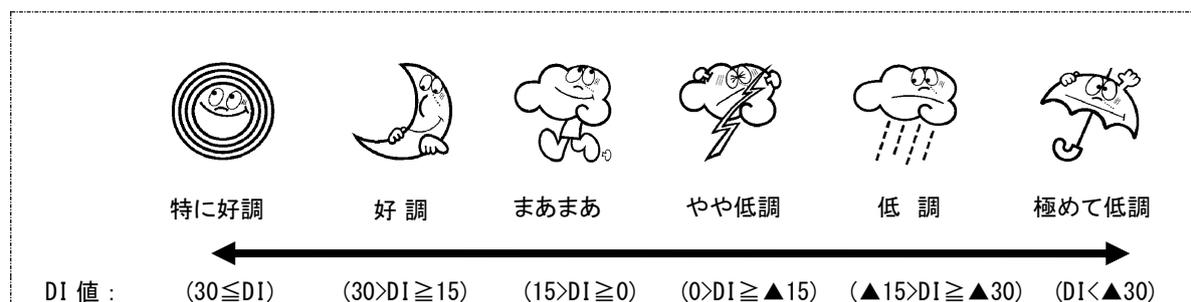
➡「変わらない」では「6月はイレギュラーであったが夏季は例年閑散期であるため」「仕入過多であるため」(製造業)「商品の入荷状況により売上が変動する可能性があるため」(卸売業)「行動制限のない夏休みを迎えるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や様々な物品の値上げの影響を受けているため」(飲食業)といった声が寄せられた。

➡「下降しそう」では「6月が売上計上の関係で一時的に良かったため」(製造業)「夏季は特需があったため」(小売業)「特に回収できるプロジェクトがないため」「職業訓練応募者数が微減に転じたため」(サービス業)といった声が寄せられた。また「資材等の高騰の影響を受けているため」「新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため」「猛暑の影響を受けているため」といった声が多数寄せられた。

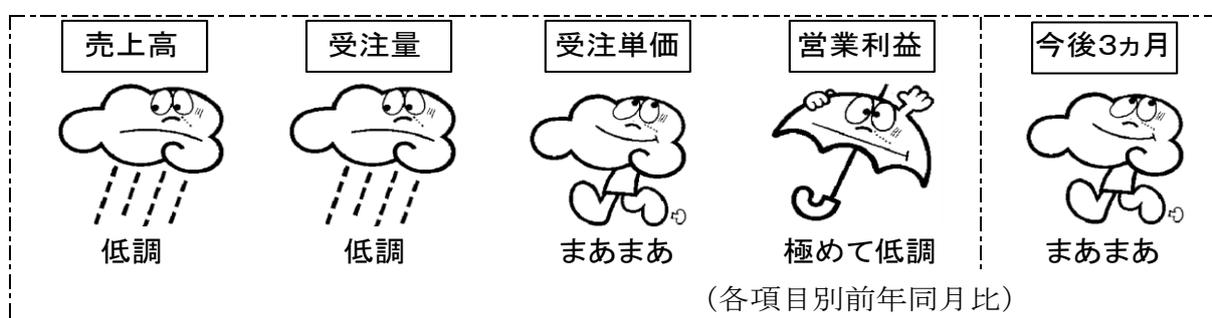


業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月
売上高	▲ 18.2	▲ 26.3	▲ 25.0	22.2	▲ 4.5	15.8	▲ 5.5	▲ 15.8	▲ 23.8	▲ 25.0	▲ 15.8	▲ 19.1	▲ 21.0
受注量	▲ 18.2	▲ 36.8	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 5.3	▲ 38.9	▲ 31.5	▲ 42.9	▲ 30.0	▲ 21.0	▲ 23.8	▲ 15.8
受注単価	▲ 9.1	▲ 15.8	▲ 10.0	▲ 5.6	▲ 9.1	5.3	▲ 11.1	▲ 15.8	▲ 19.0	▲ 10.0	10.5	▲ 4.7	5.3
営業利益	▲ 18.2	▲ 36.8	▲ 30.0	5.6	▲ 22.7	▲ 5.2	▲ 27.8	▲ 21.0	▲ 23.8	▲ 30.0	▲ 31.6	▲ 38.1	▲ 36.8
見通し	4.5	0.0	5.0	11.1	▲ 4.5	▲ 5.3	▲ 5.5	▲ 15.8	▲ 19.0	▲ 5.0	0.0	▲ 4.7	10.5

<経営者の目・見方・e t c>

土木工事

・近くに商業施設が建設中である。村井町商店街の廃業等が加速し個人商店等は諦めているようである。

電気工事

・円安の恩恵を受けている輸入関連企業に経済の引率役を期待している。
 ・依頼があったとしてもここ数か月同様、資材等の納期の関係で前に進まない状態である。

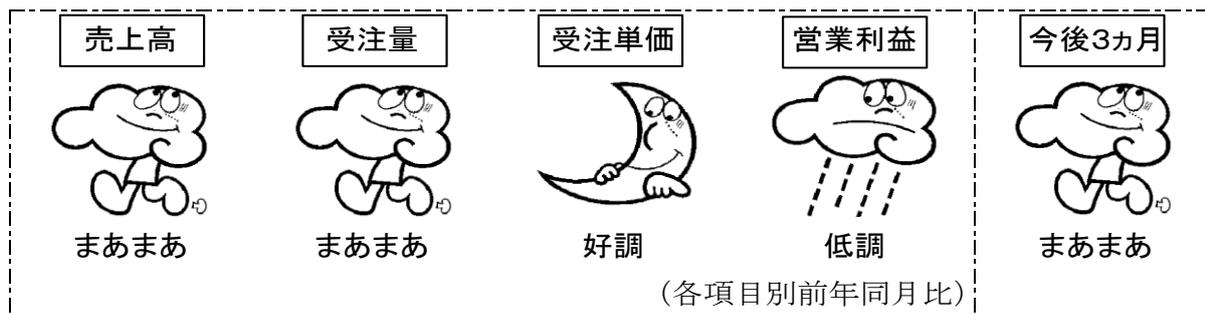
鉄工

・材料や副資材の高騰が止まらない。今後の受注に頭を悩ませている。

総合建築

・資材の高騰に悩まされている。利益の低下が危惧される。

2. 製造業



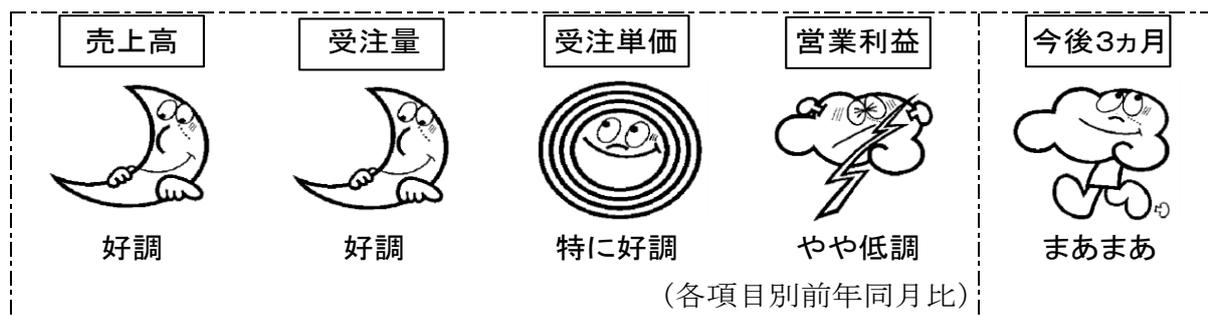
【項目別DIの推移】

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月
売上高	25.0	35.0	22.7	4.6	10.0	▲ 5.2	▲ 5.0	10.5	▲ 52.7	0.0	▲ 16.6	▲ 10.0	5.5
受注量	25.0	25.0	9.1	4.6	10.0	▲ 5.2	▲ 10.0	5.2	▲ 47.4	5.5	▲ 22.2	10.0	11.1
受注単価	5.0	0.0	▲ 9.1	▲ 9.1	5.0	5.3	▲ 5.0	▲ 10.5	▲ 21.0	▲ 5.5	11.1	5.0	16.7
営業利益	▲ 5.0	5.0	4.5	▲ 4.5	▲ 20.0	▲ 15.7	▲ 35.0	▲ 10.6	▲ 57.9	▲ 11.1	▲ 44.5	▲ 50.0	▲ 27.8
見通し	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 9.1	▲ 20.0	▲ 36.8	▲ 20.0	▲ 15.8	5.3	▲ 22.2	▲ 16.7	▲ 5.0	5.5

<経営者の目・見方・e t c >

- | | |
|----------|---|
| 精密機器組立 | ・原材料やエネルギーコストの上昇に加えて部品の入荷不足もあり厳しい経営状況が続いている。 |
| 小型情報機器組立 | ・小売電気業の撤退で料金が25%上がった。大手では新規契約は出来ないのではと言われてしまい、多くの事業所が困っている。 |
| 印刷 | ・イベント、展示会などが復活してきた。売り上げもコロナ禍前の90%まで戻った。
・印刷物へのDXやSDGsに伴う風当たりは強く、印刷物削減に歯止めが掛からない。 |
| 金属塗装 | ・いくらか受注に動きがあるが、原材料や燃料の値上がりを売価に反映できず採算が悪化している。 |

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月
売上高	7.7	▲ 10.0	▲ 25.0	0.0	7.7	9.1	8.3	40.0	40.0	23.1	54.5	23.1	25.0
販売客数	▲ 15.4	▲ 10.0	▲ 16.6	▲ 25.0	7.7	9.1	▲ 16.7	10.0	▲ 10.0	7.7	18.2	7.7	16.7
販売客単価	15.4	10.0	▲ 8.3	0.0	23.1	36.4	8.3	40.0	20.0	30.8	36.4	38.5	41.7
営業利益	▲ 7.7	▲ 20.0	▲ 16.7	0.0	7.7	▲ 9.1	0.0	30.0	0.0	▲ 7.7	27.3	15.4	▲ 8.3
見通し	▲ 7.7	▲ 30.0	▲ 16.7	16.7	7.7	▲ 9.1	▲ 25.0	0.0	10.0	0.0	▲ 9.1	0.0	8.4

<経営者の目・見方・e t c>

青果

・例年より早い梅雨明けで水不足の影響がある。加えて猛暑ということで農作物の作柄が心配である。販売状況も葉菜類の単価安でかなり厳しい状況である。全体的にも物価高による買い物控え感がある。

青果卸小売業

・お客様が低価格の商品を選んで購入している傾向がある。

魚介類

・緩やかではあるが、飲食店や宿泊業者が回復している。

土産品

・長野県内または松本地区への観光客が大幅に増えており、お土産の需要も大きく増えている。

金属製品

・エネルギー資源や鉱物資源、円安の動向もあり、高炉メーカーは強気一辺倒である。スクラップ価格が下落傾向や物量減、また商品の飽和もあり流通は弱気な状態である。先々は車関連の回復、造船の受注増、都市開発やインフラ整備案件と明るい話はあるが、まだまだ不透明感は拭えない状況である。

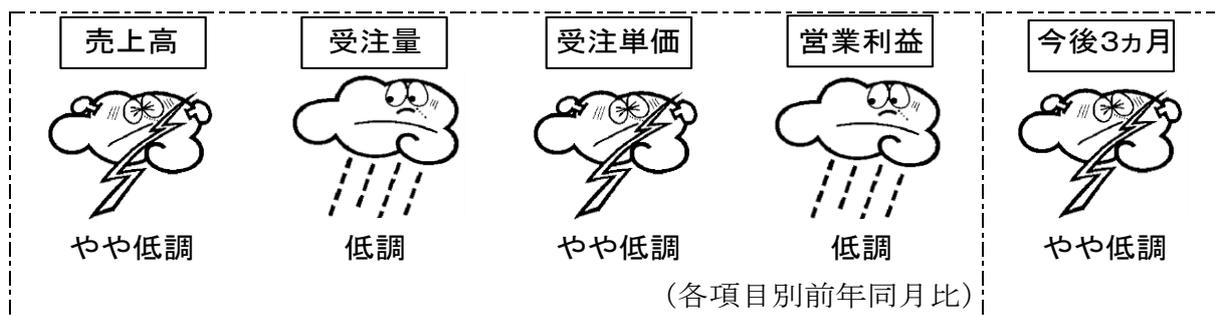
自転車

・仕入価格が上がっている。輸入商品は1ドル130円を下回らないとさらに上がりそうである。商品供給も十分ではなく入荷が遅れている。

医薬品

・物価上昇の影響が長期化している。

4. 小売業



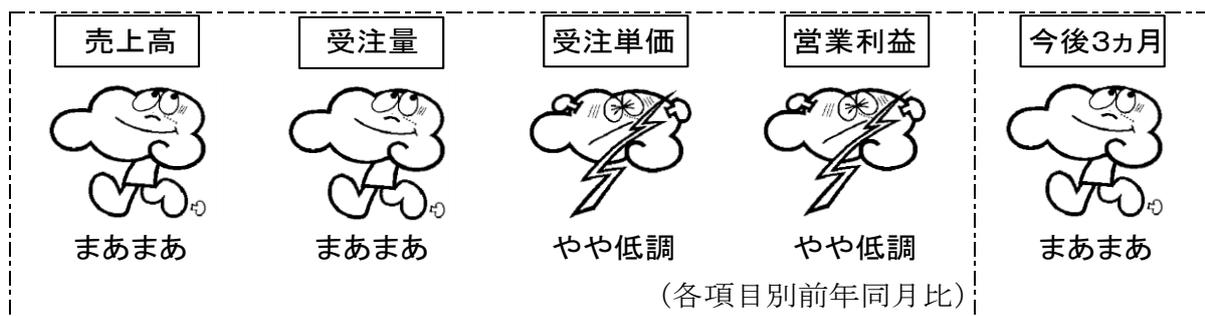
【項目別DIの推移】

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月
売上高	▲ 16.7	▲ 13.6	▲ 48.2	▲ 45.9	20.9	13.0	9.1	4.4	▲ 28.0	4.2	4.5	26.1	▲ 3.9
販売客数	▲ 20.8	▲ 13.7	▲ 44.5	▲ 50.0	8.3	13.1	0.0	▲ 4.4	▲ 32.0	▲ 4.2	4.6	17.4	▲ 15.4
販売客単価	▲ 29.2	▲ 13.7	▲ 29.6	▲ 20.9	4.2	▲ 13.1	27.3	0.0	4.0	16.7	0.0	8.7	▲ 11.5
営業利益	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 37.0	▲ 50.0	4.2	4.3	0.0	0.0	▲ 16.0	4.1	0.0	8.7	▲ 23.1
見通し	▲ 8.3	▲ 13.7	▲ 14.8	0.0	12.5	▲ 8.7	▲ 27.3	4.3	▲ 12.0	0.0	4.6	8.7	▲ 11.5

<経営者の目・見方・e t c>

- | | |
|---------|--|
| 印章 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業の異動に付帯するゴム印類の注文が多く忙しかった反面、個人の印鑑の注文が年々減っているのが気になる。町の中で修学旅行やバスツアーの方を随分見かけるようになった。新型コロナウイルス感染症の再拡大は懸念されるが、町の賑わいはありがたい。 |
| 印章・刃物研ぎ | <ul style="list-style-type: none"> ・商店街に修学旅行生の姿が目立つが、買い物客は少ない。観光客が増えることを期待したい。 |
| 燃料 | <ul style="list-style-type: none"> ・為替相場の変動、原油価格の高騰、ウクライナ問題など多くの問題があり、先が不安である。 |
| 化粧品 | <ul style="list-style-type: none"> ・猛暑による外出の制限又物価の高騰による消費への制限など影響してくる感じがする。 |
| 手芸用品 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染者数の減少に加えて、早い梅雨明けもあり、観光客が増えてきた。このままのペースで増えてほしいが、このところの感染者数の増加が気になる。 |
| 洋菓子店 | <ul style="list-style-type: none"> ・仕入業者によると、最近の値上げや円安により大変厳しいとのこと。洋菓子は輸入品が多いため原材料の高騰が続いている。すべての店舗において自分たちの経営方針や理念を見つめなおす良い機会になっている。 |
| 和菓子 | <ul style="list-style-type: none"> ・暑さで人出がなく売上がかなり落ちてしまった。 |
| 生鮮食品 | <ul style="list-style-type: none"> ・6月は父の日があるので毎年その日に向けて準備をするのだが、今年は間に合って売上もよかった。ただ色々な物が値上がりし来月より仕入値も上がると頭が痛いことである。 |
| パン | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきていることもあり、旅行客らしき人が増えてきている。 |

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月
売上高	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 82.4	▲ 61.1	▲ 17.6	5.3	16.6	▲ 50.0	▲ 80.0	▲ 35.3	0.0	7.2	11.8
販売客数	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 76.5	▲ 66.7	▲ 23.5	10.5	16.6	▲ 62.5	▲ 86.7	▲ 35.3	7.2	0.0	11.8
販売客単価	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 52.9	▲ 44.4	▲ 29.4	▲ 10.5	5.5	▲ 37.5	▲ 53.3	▲ 35.3	▲ 7.2	0.0	▲ 5.9
営業利益	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 82.4	▲ 66.7	▲ 29.4	▲ 21.0	16.6	▲ 56.2	▲ 80.0	▲ 47.0	▲ 21.5	▲ 21.5	▲ 11.8
見通し	5.0	▲ 15.0	▲ 29.4	0.0	5.9	▲ 5.2	▲ 33.3	▲ 43.8	13.3	11.8	7.2	7.1	11.8

<経営者の目・見方・e t c>

料理

- ・観光客の増加がみられ、新型コロナウイルス感染症の動向に懸念はあるものの、売上の回復に期待出来そうである。

- ・梅雨入りかと思えばすぐに梅雨明けとなった。新型コロナウイルス感染症の影響を受け目まぐるしい日々であった。

- ・夜の人出が少なくなった。土曜日以外は人出は少なめであり、夜はもとと少ない。夜にお店を閉めている場所が多くなり、暗い通りとなっている。宴会は少ない。

創作料理

- ・新型コロナウイルス感染症が落ち着きつつあったが、新変異種のBA.5の感染拡大で縮小開催ではあるが開催が決定していた夏祭りやほかのイベントも中止となった。6月の来店予約は2件10人のみと相変わらずの状況である。近所にあった店舗は耐え切れず閉店を決めたようである。今後の感染拡大により第7波がどんな影響を及ぼしてくるのか今から不安でいっぱいである。

そば

- ・善光寺御開帳などの恩恵があり、コロナ禍以前の水準に戻りつつあったが夜の宴会がなく食材等の値上げもあり今後も楽観視はできない。

寿司

- ・猛暑ではあったが、晴天日が多かったため業績はプラスになった。今後は引き続き人手不足であったり、新型コロナウイルス感染症の変異株などの感染拡大など厳しい経営環境が続く見込みであるが、感染対策を万全にした上でご来店いただいたお客様に最大限尽くしたい。

- ・経済は少しずつ上向きになっていっているように感じる。しかし新型コロナウイルス感染者数が日に日に増えていっている。また規制がかからなければいいのだが、現状は対策をしっかりとし営業を進めていく。

食堂

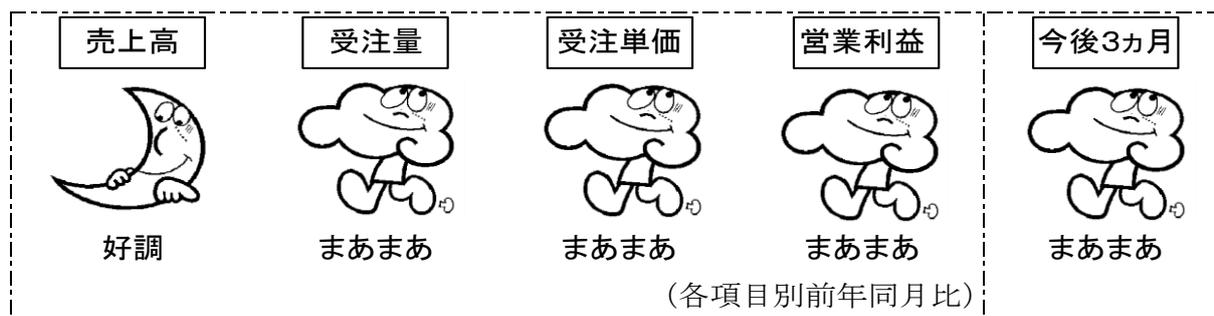
- ・昨年に比べると、客足が戻ったような気がするが原材料や経費などが値上がりし、未だにメニューの値段を上げることができず大変である。

- ・材料費の相次ぐ値上げでやむを得ず50円値上げした。お客様の理解は得られたと思う。昨年より売り上げ増となった。

洋風居酒屋

- ・新型コロナウイルス感染症の落ち着きがあったためか、昨年に比べると良くなってきている。今後の更なる落ち着きに期待したい。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月
売上高	0.0	0.0	▲ 15.0	▲ 17.5	▲ 20.5	▲ 7.1	▲ 2.5	0.0	▲ 12.0	9.8	5.0	19.0	17.0
販売客数	0.0	▲ 6.8	▲ 22.5	▲ 17.5	▲ 27.3	▲ 14.3	▲ 10.0	4.7	▲ 23.8	▲ 4.8	▲ 2.5	11.9	7.4
販売客単価	▲ 4.8	▲ 9.1	▲ 7.5	▲ 10.0	▲ 22.8	▲ 4.8	▲ 12.5	▲ 2.3	▲ 14.3	0.0	0.0	0.0	7.3
営業利益	▲ 9.5	▲ 15.9	▲ 22.5	▲ 20.0	▲ 20.4	▲ 7.1	▲ 10.0	▲ 4.7	▲ 31.0	2.4	▲ 12.5	7.1	2.4
見通し	14.2	▲ 18.2	▲ 7.5	10.0	▲ 13.7	▲ 7.2	▲ 17.5	▲ 20.9	2.3	2.5	15.0	9.6	4.9

<経営者の目・見方・etc>

旅館

- ・予約は増えてきているが、人手不足で予約を受けることができない場合があり、非常に残念である。
- ・予約が入っても、新型コロナウイルス感染症や天候の影響でキャンセルになってしまうことが多い。

温泉旅館

- ・4月ごろより新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきており、予約も増えていった。第7波が来ないことを祈るばかりである。
- ・善光寺御開帳と信州割SPECIALのおかげで例年の閑散期の6月よりも比べ物にならない程のお客様の入りで正直驚いた。このふたつに非常に感謝している。人件費や光熱費、食材費が値上がり続けているので、利益を出すために売価に載せているが、この強気の売り方がいつまで続けられるか心配である。

観光旅館

- ・昨年は6月中旬から7月まで休業したが、今年は営業した。しかし、梅雨の時期に来てくれていたF.I.Tの外国のお客様もなく、雨があまり降らなかったのにもかかわらず宿泊は伸びなかった。しかし、日帰りのバスが増えてランチの入込はコロナ禍以前に戻りつつある。

宿泊

- ・withコロナにより観光に対する動きが出てきたように思う。今後はインバウンドの戻り方にも注目したい。

ホームクリーニング・リネンサプライ業

- ・インバウンドの回復にはあと1、2年かかりそうであるが、国内の旅行者は確実に増加している。

機械設計

- ・購入部品の納品までに半年もかかっている。長いものは1年以上であり、まだこの状況が続きそうである。

ソフトウェア

- ・急激な円安や原材料、光熱費の高騰などにより、進捗中のシステム化プロジェクトが中断するなどの影響が出始めている。また、半導体不足はシステム機器の手配計画にも影響していて、今後の先行きが見通せない。

タクシー

- ・人出は増えてきた様であるが、逆に新型コロナウイルス感染者数がまた増加傾向になってきて安心できない。

写真

・6月は色々なところで動いたと感じる。イベント、学校行事や結婚式など写真業界的には良かった。新型コロナウイルス感染症の状況にいつも左右されてしまうので今後このままの状況でいつまでいけるか不安が募っている。